



新型インフルエンザの流行を経験して

大塚 盛男 (保健管理センター 疾患制御医学専攻 教授)

新型インフルエンザ (A/N1H1) の流行

昨年度の本号では、「もし、新型インフルエンザが流行したら…」というテーマをとりあげました。執筆中は未だ新型インフルエンザ発生に関する情報はありませんでした。発行後間もなくメキシコで発生した新型インフルエンザがすでに北米大陸に流行しているとの情報が流れ、その後瞬く間に全世界へと流行し6月にはWHOによりパンデミック宣言が出されました。幸いにも当初予想されていた高病原性鳥インフルエンザウイルス (N5H1) の変異したものではなく、別のタイプのウイルス (H1N1) であり、比較的軽度で経過する方が大部分でしたが、病原性が正確に解析されるまでは世界的にも大変深刻に考えられました。

日本では11月頃に流行のピークを迎え、全国で一週間に約150万人が発病した時期もありました。現在までの累積患者数は約2000万人と推計されておりますが、今年になり流行は減少傾向となり、3月初め現在の患者数はピーク時の約1/50程度となっております。世界的にも同様の傾向を示しているようです。

今後、この新型インフルエンザがどのように経過するのかわかりませんが、過去の新型インフルエンザでは大流行の波を数回繰り返したことが明らかになっており、未だ今回のウイルスに感染していない人も多いため再度流行の波がくる可能性はあります。しかし、今回のウイルスの性状や現在の医学レベルを考えると、ウイルスに大きな変異がなければ深刻な事態にはならないものと思います。今後の推移を注意深く見守りたいと思います。

インフルエンザ等の感染症の予防

我々は常にウイルスや細菌などの病原体による感染のリスクに曝されており、風邪、インフルエンザ、感染性胃腸炎などは毎年多数の方が罹患します。また、今回の新型インフルエンザや数年前の麻疹やSARSのように突然大流行する場合があります。

ウイルスが原因となって生じる風邪や感染性胃腸炎、麻疹などには特異的な治療薬はありません。また、インフルエンザも時間が経ってしまうと治療薬は役立ちません。身体の免疫系が十分機能するまで待つ間、辛い思いをしなければならないこともあるので、これらの疾患にできるだけ罹らないようにするには、日常的な予防対策が大切です。また、インフルエンザ・麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜなどではワクチンによる予防も重要です。

通常の感染症は、咳やくしゃみの飛沫に含まれる病原体を吸入することにより生じる飛沫感染や病原体の付着した物を触った手を介して眼・鼻・口から病原体が侵入する接触感染、病原体が含まれるものを食べて感染する経口感染などが主な経路となります。今回の新型インフルエンザで行われた、咳・くしゃみの症状がある人は必ずマスクを着けること、咳・くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ他の人から顔をそむけ1m以上離れること、咳・くしゃみをおさえた手や鼻をかんだ手は直ちに洗うこと等の「咳エチケット」は他の感染症対策でも重要です。また、感染者にはできるだけ近づかない、人混みを避ける、感染者と接する時にはマスクを着ける、手洗いを日常的に行う、免疫力を低下させないように十分な休養、睡眠、バランスのとれた食事をとることも大切です。

上記の予防対策を日常的に行い、インフルエンザ等の感染症の罹患や流行を防ぐよう心がけてください。



ひとりで悩まず 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410
学生相談室受付 029(853)2415